

1 まちを纏うスタジアム  
美谷 添巧

敷地：相模原総合補給一部返還地  
用途：スタジアム

日本のスタジアムは郊外の都市公園に非日常的かつ均一的なかたちで建設され都市との関係性が分断されてきた。5年後リニア新幹線が開通する橋本駅に隣接する相模原駅前の広大な空地において、まちとの関係性を分断する要素であるスタジアムのコンコースのあり方を見直し、まちを纏う「新たなスタジアムのかたち」を提案する。



2 生音楽空間新構築実験  
白井 佳音

敷地：なし  
用途：音楽ライブ空間

ライブは音楽を生でより深く空間的に体感することができる唯一のコンテンツである。しかし、現代のライブでは全ての楽曲が同じ直方体のハコの中で演奏されるため音楽の表現が制限されているように思われる。一曲に対してひとつの空間があってもよいのではないだろうか。これは制限された“生”音楽空間を開閉するための実験的建築である。



3 自然と共に  
秋葉 大地

敷地：神奈川県相模原市  
用途：集合住宅、コメンセ他

高齢化の進む日本において高齢者のための住宅の整備は大きな課題である。高齢者集合住宅で高齢者との交流のために一部若者が住む例もあるが、低家賃と引き換えに交流会に参加する等若者への制約も多い。もう少し緩い関係で共に生活できる場はつくれないだろうか。そこで、各々が好きなことをする中でも自然と交流が生まれ、安心で豊かに暮らせる、高齢者と大学生のための集合住宅の提案を試みる。



4 都市の融合  
今井都紀子

敷地：東京都品川区  
用途：オフィス

大崎駅周辺は再開発によってかつての工場街から、高層の建築が立ち並ぶオフィス街へと変化した。まちは計画的に整備されたが、利用者が限られるオフィスは時として街の中を分断する要因となると考える。本設計においては、オフィスで働く人とこの地域の人が同時に過ごせる公共空間をオフィス建築の中に共存させ、新しいオフィスと地域の関わりを生み出すことのできる場所を作る。



5 わたしの安全基地  
柴田 悠花

敷地：東京都国立市  
用途：メンタルケア

どこかに逃げ込みたいときや、どうしてもなく生きづらさを感じる時はありませんか。その原因の一端は愛着障害の結果であり、安全基地の欠如であると考えられています。精神的安心感の拠り所は日々をより生きやすくする土台として、さらには外への挑戦のための踏み台として機能します。自分を整え、より良い自分へと近づけるための相談・芸術・情報、気づきの空間を提案します。



6 所有からの脱却  
塚田隆太

敷地：埼玉県戸田市  
用途：集合住宅

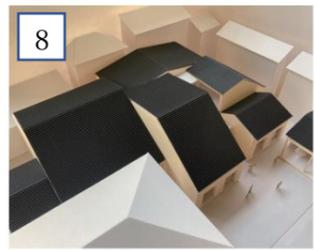
シェアハウスやシェアカー等の共有の価値観が生まれ、また新たな仕事のスタイルが確立がされていく中、家や車を所有し都心へ仕事に出かけるといった「一律な生活感」が根付くベッドタウンに、住民の所有物が公共空間を作り出す集合住宅を提案する。敷地は街にありふれた平面駐車場の上部とし、そこの生活が街に透けることでベッドタウンの住民の価値観が多様になることを目指した。



7 桜の木の下で  
小川未来

敷地：神奈川県横浜市桜台  
用途：商業・公共施設（集合住宅）

50年程前に内井昭三によって設計された桜台ビレジ。建設当初は画期的な集合住宅であったが、時が流れると共に時代のニーズとのズレが生じ、次第に設計意図のように機能はなくなっていった。今後もこの桜台ビレジを住宅として残していくために現在生じている問題を解決し、より良く活用する空間を提案する。



8 司書の家（別の名を図書館という）  
宮川朋美

敷地：神奈川県鎌倉市  
用途：図書館（+住宅）

建築としての図書館と、その動力となる司書は「本と人」をつなぐ以上に「人と人」をつなぐ役目を担う。人との対話と関わりを大切に司書の活動が活きる図書館とその成り立ちに手順があるとしたかこのような過程を辿るのではないだろうか。図書館の役割を見直し上で、司書の手により始まり人の場となる場所を想像する。



9 トキドキ、ハレ  
藤本 凌平

敷地：兵庫県高砂市  
用途：広場、フェス会場

人々の営みの蓄積によって、生み出された採石場跡。削り出された岩肌、採石により生み出された湖、侵食する木々が共存するこの場所には神秘的な美しさが存在する。非日常的な空間である、この場所を時には心を沈める場所として、時には空間を活かしたフェス会場として利用していく。その中で「ハレとケ」の二つの顔を持つ場として、採石場跡という場所の魅力を発信していく。



10 分け与えられたもの  
由利 一樹

敷地：東京都葛飾区堀切  
用途：工房、銭湯、食事処

何かが朽ちる時、何かが成長するこのことを自然界における循環のルールとし、建築生産システムに応用する。建築解体時にかたちとして残る建材を新たな建築の『栄養』と捉え、空間先行ではなく、材料先行の建築を設計する。東京都葛飾の木密を舞台とし、自然の力を応用することで地域問題を解決しながら建築における新しい資源循環について考えていく。



11 道なる学び - もうひとつの学校 -  
砂村 三奈

敷地：東京都世田谷区  
用途：交流・学習施設

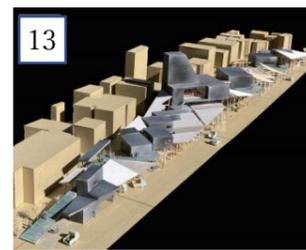
人との出会いや対話から得られる学びはとても多い。しかし、学生生活の大半を過ごす「学校」で出会う人は、少し限定的ではないだろうか。そこで本提案では、既存の学校に加えて、学生が日常的に通う、「もうひとつの学校」を提案する。小学生から大学生の既存通学路から発想を得、多様な学生や地域の人が立ち寄り、学びを共有する場をつくる。「学年」や「学校」などの属性に囚われない、そんな自由な学び方を担い、開花させる建築を目指す。



12 park (ing)  
井上 将吾

敷地：西湘 PA (下り)  
用途：パーキングエリア

海岸浸食に悩むパーキングエリアの再設計。度重なる護岸の増強を肯定的に解釈し、護岸を公園のように使うための設計を行った。街、河口、砂浜、高速道路、松林、公園、といった敷地の周辺に広がるコンテクストを吸収しながら、ひとつの円形の遊歩道を構築し、それを貫くようにパーキングエリアの機能を挿入することで、地域住民にとっても高速道路の利用者にとっても快適に過ごせる空間を目指した。



13 農 HUB 建築  
竹居 英人

敷地：東京都調布市 京王線線路跡地  
用途：複合公共施設

都市農業が展開される調布において、農地は無情にも宅地化されていく。食（消費活動）と農（生産活動）の乖離を問題意識とし、郊外原風景として残る農地を保存すべく、調布駅～布田駅間の京王線線路跡地に、日常生活と農産物の HUB となる複合公共施設を計画する。農地保存に向けた第一歩、世の中の農に対する意識改革となる建築である。



14 受け継ぐ記憶  
竹井雅貴

敷地：埼玉県さいたま市大宮区  
用途：市役所、商業施設

その土地で培ってきた記憶やその場の景色が、高層ビルや高層マンションによる大規模再開発により消えつつある。機能を失った建物は管理しきれず、取り壊され、その土地がもつポテンシャルを考慮せず、無個性なビルが立ち並ぶ。そこで、そのまの顔である庁舎の建て替えによる街区再編の提案を行う。



15 非日常が編む、日常  
- 都市的共同性の獲得を目指して -

敷地：東京都渋谷区宇田川町  
用途：住宅、美術館

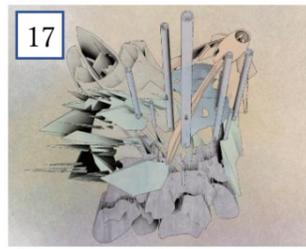
都市に住まう人々の間には共同性の形成がなされていない。それは都市が持つ匿名性と、住まう際に困難なく日常を手に入れられるということからではないだろうか。しかし、それは都市に暮らす人に一抹の不安を覗かせる。本卒業設計では、渋谷が都市的な利権的面と文化形成による共同的な面との2面性を持ち合わせていることに着目し、渋谷的文化形成プロセスから都市的共同性獲得の提案を行う。



16 ハモニカ横丁再編計画  
高吉 海斗

敷地：東京都武蔵野市  
用途：商業 + 住居

横丁は人々が主体となって積み重ねてきた七十余年の「時間」の蓄積が、多様な人と空間の関係を作ってきた。人が住みながら商売をして、横丁らしさを作ってきた営みのあり方を、建築を再編することで考えていく。人が育ててきた横丁という場所を、人の力で作り直していく。横丁の人と地域の人と共に営みを重ねている - そんな風景をめざす計画。



17 内なるかたちの発生  
岡田 竜真

敷地：なし  
用途：なし

私のこころをかたちとして発生させる。そしてかたちを建築として設計することで利用可能としこころを体感する。自分の素直な感情を空間を通して知ることによって本当の気持ちに気づき、豊かな人生を歩み始める。



18 土地履歴の追想  
近藤 慧太

敷地：熊本県  
用途：記憶連結装置

熊本地震の震源地である益城町周辺を対象に 11 の建築を据え、その事象の文脈の外にいる人々に他地域の災害をいかに自分事であると感じてもらおうかについて模索した。災害を思い出すのでは無く、被災地の時間とその当時に停止しておらず連続した時間であるということの再認識を図った。



19 浮舟の社  
岡本 晋作

敷地：代々木換気所  
用途：拝殿

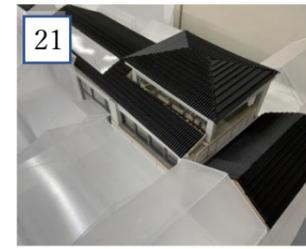
かつて先人たちは自然の恩恵に感謝し、また天災を畏れ自然に対して祈りを捧げた。現代の大都市は人のスケールを超えた人工物で埋め尽くされている。人の創り出したものが人を含めた環境に大きなインパクトを与える時代において、この都市を見つめ直す場が必要なのではないか。大都市渋谷と新宿の間に位置する地下高速の換気所（代々木）に拝殿とただ人が時間を過ごすための場を計画する。



20 団地共同再生計画  
神山祥太

敷地：東京都町田市鶴川  
用途：公共施設

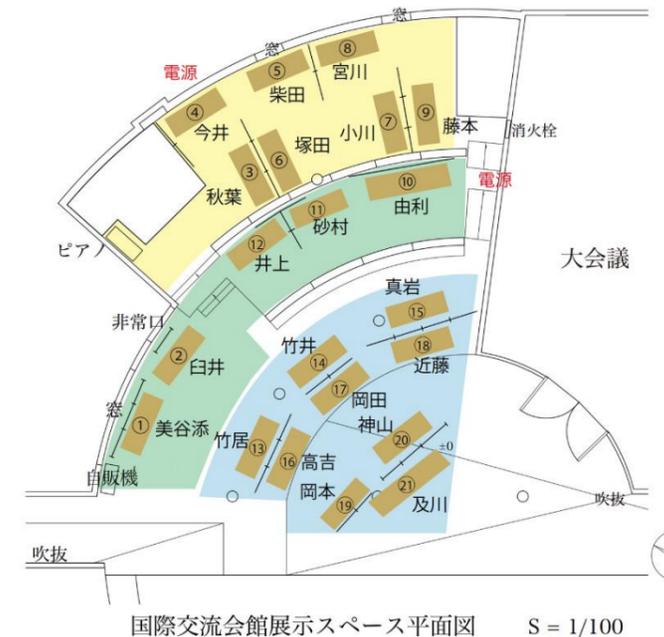
皆さんには思い出の場所、記憶の一部となっている風景はあるでしょうか？もしある日、その場所が一般的な建て替えによって壊され、更地になり、新しい建物が建っていたら喪失感を覚え、心に穴が空いたような気持ちになるでしょう。そこで、そんな思い出の場所を自分たちの手で調査、計画、解体・施工までやり、建物を再生させるプロセスと一例として鶴川団地センターのコンバージョン計画を提案します。



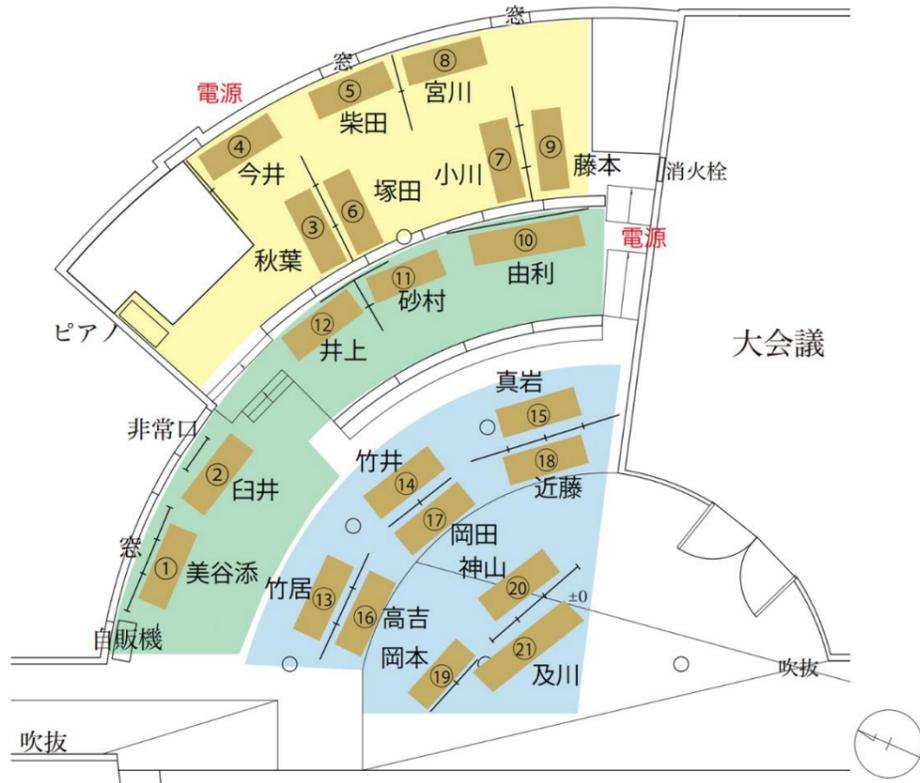
21 ひとつ、まちと、やねと  
及川 裕介

敷地：栃木県栃木市嘉右衛門町  
1: 雑貨屋、2: 住宅兼酒場、3: ミニシアター

伝建地区における修景規制はそこで生活する町民の存在を忘れて。街の外観を守ろうとしすぎるが故に町民は生活する場の更新を行うことができない。敷地調査を通して残すべき規制（＝街の構成）を明らかにし、①屋根、②動線や柱割、③ひとつひとつのアプローチから嘉右衛門町におけるこの街にしかない、未来へ向けた修景方法を提案する。



国際交流会館展示スペース平面図 S = 1/100



国際交流会館展示スペース平面図 S = 1/100

- 令和三年度東京都立大学  
卒業設計展 作品タイトル一覧
- ① まちを繕うスタジオ
  - ② 生音楽空間新構築実験
  - ③ 自然と共に
  - ④ 都市の融合
  - ⑤ わたしの安全基地
  - ⑥ 所有からの脱却
  - ⑦ 桜の木の下で
  - ⑧ 司書の家
  - ⑨ トキドキ、ハレ
  - ⑩ 分け与えられたもの
  - ⑪ 道なる学び—もうひとつの学校
  - ⑫ Park(ing)
  - ⑬ 農 HUB 建築
  - ⑭ 受け継ぐ記憶
  - ⑮ 非日常が編む、日常
  - ⑯ ハモニカ横丁再編計画
  - ⑰ 内なるかたちの発生
  - ⑱ 土地履歴の追想
  - ⑲ 浮舟の社
  - ⑳ 団地共同再生生計画
  - ㉑ ひとと、まちと、やねと



**学内講評会**

日時：2022年2月10日(木) 9:00~18:30  
(午前：ポスターセッション、午後：議論)  
会場：国際交流会館大会議室

ゲストクリティーク3名(敬称略)

篠原 聡子 建築家  
(空間研究所代表)

吉村 靖孝 建築家  
(吉村靖孝建築設計事務所代表)

鷺田 めるろ キュレーター  
(十和田市現代美術館館長)

**八雲審査会**

日時：2022年2月11日(金)  
(午前：ポスターセッション、午後：議論)  
会場：国際交流会館大会議室

審査員6名(敬称略)

吉里 裕也(1996年卒)  
(SPEAC代表・「東京R不動産」代表 ディレクター)

品川 雅俊(2005年卒)  
(株式会社ASパートナー)

梁井 理恵(2007年卒)  
(株式会社オンデザインパートナーズ/アヤトリデザイン)

畑江 未央(2008年卒)  
(株式会社日本設計 主管)

浜田 晶則(2010年卒)  
(株式会社浜田晶則建築設計事務所)

岡 佑亮(2012年卒)  
chidori studio

司会：佐々木龍郎(1987年卒)  
(株式会社佐々木設計事務所代表取締役)

運営委員会：富永 大毅  
(株式会社TATTA)

鹿内 健  
(株式会社Sデザインファーム)

原 浩人  
(ハラヒロト建築設計事務所)

井川 充司  
(株式会社IKAWAYA 建築設計)

廣瀬 健  
(株式会社 HOUR-Design)

**MEMO**